

平田真紀が  
勝手にガイド

# 橋一洋の本

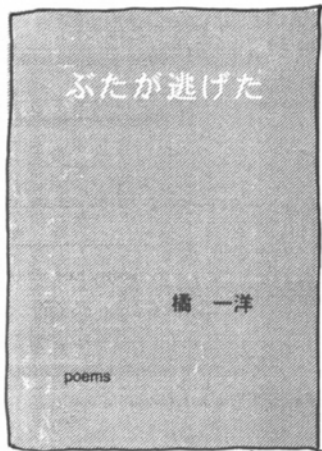
※ すべて平田真紀目線のガイドとあっており、ごめんなさい。

詩人・橋一洋とは

20年くらい前に、まだインターネット以前の「パソコン通信」ニフター・サーブの詩のフォーラムで出会って以来、平田真紀と芸術的交流のある先鋭的な芸術家。その作品は平田真紀をゆに刺激してやまない。

と芸術的交流のある先鋭的な芸術家。その作品は平田真紀をゆに刺激してやまない。

2005



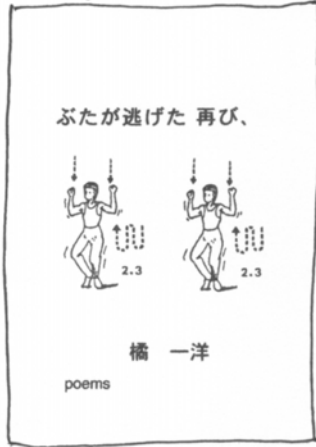
(600円)

第一詩集。これが私の所へ送られてきて、読んだ時の衝撃を私は忘れることができない。しばらく詩歌から遠ざかっていた私に、体の中を流れる詩人の血を思い出させた。これを読まねば今私はここにいられない。

初めて橋一洋の詩を読んだ人におすすめの。

オリジナルティと輝きに満ちながら、どこか素朴なところもあり、人々を魅了する作品集。

2006



(600円)

前作のテイストが進化と深化をもげた第二詩集。日常の「ここかしこに光る詩人の目。ラストに収められた詩「レモン」には最新詩集『レモン小路』の原点が見える。

楽しんでいなくても知らないとこへつれていかれるような本。

2007



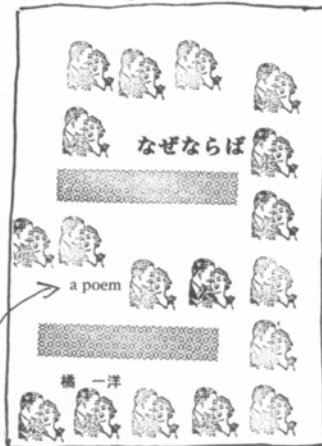
(800円)

前二作からのあまりに見事な転換をみせた第三詩集。実験、実験、また実験!! とんがりまくって大変です。詩人の魂が凝縮されたボムのようなバクフイルは詩集。

そんなところの詩じゃ満足できぬぜという人には超オススメ!

オリジナルティと輝きに満ちながら、どこか素朴なところもあり、人々を魅了する作品集。

2009



(600円)

軽やかさとつややかさ、子どもの遊びと大人の企み。それを自在にちりばめる橋一洋マジック満載の作品集...ん? これは詩集ではない!! 「Poems」ではなく「a poem」。つまり一冊で一篇の詩なのだ!! 7か所離れたところから、矢張りセクショント全体の調和。味わいどころいづれの一冊。

無心になつたのしほほしい。しほほしいもひとつの実験。

ところもオシヤレ!

2010



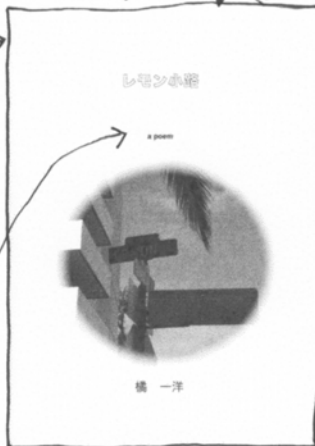
(800円)

『緩やかな水無月』の、さらさら刺さりそうなるトンガリが3年を経て成熟、結実したような詩集。とはいえ おとなしさを分別とは完全に無縁!! またえぬかれた刃で切り出される見慣れた世界の見慣れぬ様相が読者に新たな感覚器官をうづつける!!

鉄道ファンにもおすすめします (よめばわかる!)

橋一洋の作品にたいして、登場するモチーフ「レモン」。その謎をさぐってみたいくなる本。

2012



(600円)

最新詩集はまたしても詩集ではなく「a poem」!! 読者の「詩体力」がたぬれる超長い一篇の詩。「え〜長いの手紙〜」とか言わず読んでみよう!! 読むうちに知らぬ小路にひきこまれいつまでもさまよっていたくなるぞ!

すめたい詩集、すめたい詩集

トリップしたいお花畑

手に売りに歩いたりしないのでこうして勝ったのだ!!